



きたみ し  
北見市

きたみ しと きわ ちやう せつ きたみ て えほん びじゅつかん かいかん ねん  
北見市常盤町にある私設の「北見手づくり絵本美術館」が9月に開館40年をむかえます。この  
美術館では年2回、北海道の愛好家が手づくりした絵本がずらりと並ぶ展示会が開かれます。美  
術館の開設者で、北海道手づくり絵本の会の松岡義和会長（86）は「手づくり絵本は世界でたった  
一冊の絵本というロマンがある」といいます。こども記者まなっくの2人が絵本づくりなどを通じ  
て魅力を探りました。（鈴木理詞）

「まなっく」は「まなぶ」の「まな」と「行く」の「く」を「まな」に由来する愛称です  
こども記者  
まなっく  
見ぶん録

# 「世界に一冊の絵本」魅力探る



松岡義和会長（中央）の指導を受けながら真剣に絵をかくこども記者の宮内さくらさん（右）と佐々木一帆さん（星野雄飛さつせい）

宮内さくらさん（北見市・南小6年）と佐々木一帆さん（オホーツク管内斜里町・斜里小4年）が、美術館で松岡さんに話を聞きました。  
美術館は1984年9月、中学校

の美術教師だった松岡さんが自宅の敷地内に自費で開設しました。アメリカの絵本「ちいさいおうち」のさし絵をモデルにしており、白い外壁と赤い屋根が特徴的な建物です。旧国鉄官舎や木製電信柱の廃材を活用しています。  
松岡さんは紙芝居で美術館の歴史をしようかいつてくれました。宮内さ

## 美術館で四季えがき 表紙つけ

んは「どうして建てようと思ったのですか」と質問。松岡さんは「絵本をつくる愛好家の人たちがたくさんいたんだけど、発表の場がなかったから、自分がつくることにしたんだ」と説明してくれました。  
松岡さんは館内に保管している自身の手づくり絵本も見せてくれました。エゾリスをえがいたかわいらしいものから、スペインの古都トレドの文化などをしようかいつする作品までさまざまです。佐々木さんが「これまで何冊の絵本をつくったんですか」と聞くと、松岡さんは「125冊以上はつくりました。友だちにあげたり、博物館に寄付したりもしたよ」と答えてくれました。  
2人は絵本づくりも体験。テーマは樹木が四季の移り変わりで見える姿を表現すること。8枚の画用紙を使い、青々とした葉をつけたり、赤く染まったりする様子を絵の具でえがき、表紙をつけて一冊に仕上げました。作業は4時間近くかかりましたが、2人は集中力を切らさずにやりとげました。  
松岡さんは最後に手づくり絵本の魅力について「絵本づくりをする人は心が優しくなり、美しさを求める人に育つ」と話し、「けんかや戦争など美しくないものに出合ったとき、いやだと言える大人になって」と2人に語りかけました。  
宮内さんは「今回学んだことを生かして、自分で考えたお話の絵本をつくってみたい」と笑顔。佐々木さんは「絵をかくの苦手でしたが、楽しくて好きになりました」とふり返りました。

### 製本作業 難しい

きたみ し みなみ しょう ねん みやうち さくらさん  
北見市・南小6年 宮内 さくらさん

手づくり絵本は、自由に好きなものを表現できるところと、世界に一つだけのものだということが魅力だとわかりました。えがき方の基本とコツを教わると意外と簡単にできました。でも、製本作業が難しく、慎重にやらないとなかなかうまくいきませんでした。

松岡さんが元気で楽しそうなのは、大好きな絵本をずっとつくり続けているからだと思えます。手づくり絵本美術館をたくさんの人に知ってもらえたら、私もうれしいです。



### 絵の基本学べた

えほん まな  
オホーツク管内斜里町・斜里小4年 佐々木 一帆さん

北海道手づくり絵本の会の松岡義和会長は「点でえがくのは絵の基本。季節を表す絵をかくときにも大事」などと、絵がうまくなる方法を教えてくれました。そのおかげで、きれいな木をえがくことができました。

手づくり絵本美術館の中には絵本がいっぱいありました。絵をかくことは難しかったですが、絵本もつくれて楽しかったです。僕は斜里町に住んでいて北見からは少し遠いですが、また行きたいと思いました。

